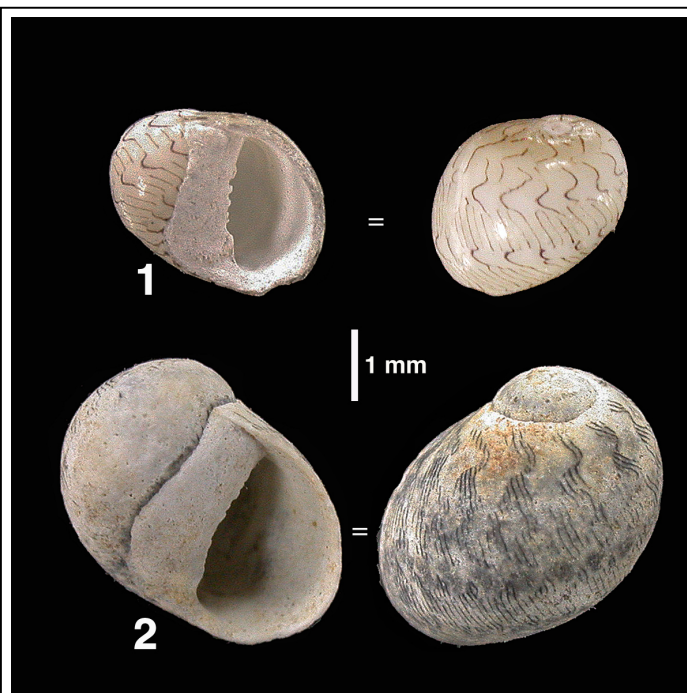


ウミヒメカノコ *Smaragdia* sp.

【選定理由】

本種は、内湾の干潟から潮下帯のアマモ場に生息する。伊豆半島以南の日本本土の内湾域から死殻が時折採集されているが、生息情報がほとんどない種 (山下・久保, 2012) である。近年生貝の採集例は、南西諸島を除いて、瀬戸内海 (福田・他, 2014)、伊勢湾口部 (木村・佐藤, 論文準備中) にあるのみで、非常に少ない。県内でも正式な生息記録がなく、伊勢湾湾口部の小規模なアマモ場周辺 (潮下帯) より死殻が数個体採集されたにすぎない。前回までに図示されていた標本 (図 2) は本種でなく、三浦・他 (2012) で図示報告された *Smaragdia* cf. *souverbiana* (Montrouzier) ウミヒメカノコ属の一種と同種であった。県内産出の本種と正しく同定された標本はここに初めて図示される (図 1)。県内における近年の生息記録が全くないという危機的生息状況で、絶滅の可能性が非常に高い種と評価された。なお、ウミヒメカノコ属の一種は今回情報不足と評価された。



1: 南知多町日賀島南沖(ドレッジ水深 3 m), 1994 年 10 月 13 日, 木村昭一採集, 2: ウミヒメカノコ属の一種(採集データは 1 と同じ)

【形態】

殻長約 5 mm の球型で、螺塔は低い。殻表は平滑で光沢があり、明るい黄色の地色に稲妻状の細かい縦縞がある。蓋は石灰質。本種の学名は確定していないが、近似種とは以下のように明確に区別できる。近似種のキンランカノコガイ *Smaragdia souverbiana* (Montrouzier) 等と混同されていた (福田・他, 2014) が、本種は螺塔が低く、レモン色の螺状色帯が無いことなどから明確に区別される。三浦・他 (2012) でウミヒメカノコ属の一種とされた種 (図 2) は、死殻では明瞭ではないが、殻の地色が暗色で、成長脈のような濃黒褐色の縦縞模様が密である。それに対して本種 (図 1) は、明るい黄色の地色に細い稲妻状の褐色線が間隔を置いて巡らされている。

【分布の概要】

【県内の分布】

県内で現在生息が確認されている場所はない。

【世界及び国内の分布】

日本のみで分布が確認されている。国内では伊豆半島以南、瀬戸内海、九州、南西諸島 (奄美大島・沖縄島・西表島) 房総半島以南の低潮帯から水深 40 m に生息する (山下・久保, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

アマモ場やコアジモ帯 (波部, 1961)、コアマモやウミヒルモ類が繁茂する環境に生息する (山下・久保, 2012)。アマモ場の減少が本種の減少の要因の一つであると思われる。

【保全上の留意点】

アマモ場を含めた内湾干潟から潮下帯の生息環境を保全する。干潟を保全し、水質の富栄養化を防止することが必要である。

【引用文献】

- 福田 宏・藤野睦子・江田伸司, 2014. 岡山県倉敷市高洲で生貝が見出されたウミヒメカノコ (腹足綱: アマオブネ科), ならびに同種とキンランカノコ・レモンカノコを巡る同定の混乱. 倉敷市立自然史博物館研究報告, (29): 29-38.
波部忠重, 1961. 続原色日本貝類図鑑. 保育社, 182pp.
三浦知之・三浦 要・富岡 宏・佐伯めぐみ・三橋利恵, 2012. 宮崎県門川町庵川アマモ場とその周辺に出現する貝類, 甲殻類および腕足類. 宮崎大学農学部研究報告, (58): 51-68.
山下博由・久保弘文, 2012. ウミヒメカノコ, p. 17. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)